

令和5年度 第3回 曳馬小学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和5年9月26日(金) 午前10時20分から 午前11時30分
- 2 開催場所 曳馬小学校 多目的ホール
- 3 出席委員 鈴木厚(会長)、飯尾忠弘(副会長)、川井啓介、小楠和子、加藤美智子、飯尾智弘、池村俊典(学校支援コーディネーター)、中津川涼
- 4 欠席委員 丸茂早織、大野木祥代
- 5 オブザーバー 大平智史(曳馬協働センター)、中村佐知枝主任(主任児童員)
- 6 学校 竹内孝夫(校長)、影山重広(主幹教諭)、内堀邦子(CS ディレクター)
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 内堀邦子(CS ディレクター)
- 9 議長選出

司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ鈴木会長を推挙する旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。

- 10 協議事項
「学校評価」について (竹内校長)

11 会議記録

司会から、委員総数10人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。オブザーバーとして、大平智史(曳馬協働センター)、中村佐知枝主任(主任児童員)に参加していただいた。

第2回運営協議会委員議事録の内容について、質問があればお願いしたい。無ければ第3回学校運営協議会の議事に入る。(鈴木厚会長)

浜松市の校長会にてコミュニティ・スクールの研究を行っている会にて曳馬小学校のコミュニティ・スクールの活動が順調に進んでいるということで、パネラーとして参加した。その様子を撮影し曳馬小学校のコミュニティ・スクールの活動紹介を行った。12月に全校長に紹介する予定。曳馬小学校コミュニティ・スクールの順調な活動の原動力となっているのは、協働センターとコーディネーターの積極的な協力の賜物だと思う。(竹内校長)

熟議

「学校評価」について

学校評価は学校だより曳馬っ子に掲載の学力調査結果とアンケート結果を合わせた評価(学校だより特別号参照)。学力調査結果は、国語、算数共に全国、静岡県平均を大きく上回った。特に国語の成績が良く、基礎学力及び同音異義語などの習熟度が高い結果となった。学校アンケートは今回初めてタブレットを使用して行った。結果、先生と子どもが良好な関係を築いていることやコツコツ自ら努力を重ねることなどの項目は高評価だった。しかし、周囲との関わり方において、他者が悪いことをしている時に悪いと伝えることができないことや、教えられたことの学習はできるが、そこから発展させ自ら考え学ぶことなどは今後の課題だと言える。2 学期からは、子どもがお互い関わり、高め合える授業運営を行っていこうと考えている。そこで、2 学期からタブレットを週末の家庭学習に使えるように毎週末持ち帰りを開始した。従来読み書き計算など基礎学力を重視した宿題だったが、タブレットを持ち帰ることにより、自ら考え興味を持ったことを発展させて学ぶ環境を作るよう試行錯誤している(影山主幹教諭)。

2学期末に行う学校評価アンケートを R5 学校評価アンケートの案として作成した。別紙参照

令和 6 年度からの教育目標「未来えがき、のびやかに学ぶ曳馬っ子」に変えていこうと考えている。10 年以上現在の教育目標を掲げてきたが、来年度から新しい教育目標に変えていこうと考えている。社会や世界を見て、実現していく未来をえがいて欲しいという思い、主体性を持ち、枠にとらわれず人とつながりのびやかに学んで欲しいという思い、曳馬っ子には自尊心、連帯感、愛校心など曳馬を基盤に育てていくという思いを込めた教育目標。

社会を取り巻く環境変化のスピードが速く、多様な個性を持つ子どもが、学びの場である学校での学習を苦しいと感じて心配している。その背景には、保護者の苦しい環境があるのではないかと考え、現在の子どもにあったそして家庭環境にあった学校に変える必要があると考えている。そのために、教員も変わる必要があると考えている。しかし、曳馬小学校は 2 学期に入り 3 人の教員が産休に入り 2 人補充があったが、教職員の不足が深刻なため 1 人補充が間に合っていない。フリーで生活指導主任の教員が担任を持ち、ギリギリで学校運営を行っているので、改革を進めるのが難しい状況。現在浜松市だけでなく全国的に教員不足が深刻な状況を鑑みて教員の働く環境改善の必要があると考えている。

重点教育目標㊦・㊧・㊨を下記の新しい目標に変えていく。別紙参照

- 1 自尊・個性伸長 → 自分の良さをみつけ高めていけるようにしよう
- 2 協働・共生 → 友達と力を合わせて活動できるようにしよう
- 3 探究・創造 → 進んで「知りたい」「やってみたい」をかなえることができる
- 4 目標・選択 → 進むべきプロセスを自ら選ぶことができる

この4つはキャリア教育に必要な力に結びついている。曳馬をこの4つに変えていこうと考えている。

- 5 から13までの項目は、知・徳・体という従来の分け方ではなく、学習と生活という分類で考え、体のことも学習のことも併せて考えていく。

学校評価に新しい項目を取り入れていく。(竹内校長)

校長先生から学校評価の説明について質問は。(鈴木厚会長)

Wi-Fiにつながないで、タブレット端末の学習はできるのか。つないでいない状態でも学習素材が入っているのか。もしつながっていないと学習できないのならば、Wi-Fi環境がない家庭についてはどのように対応しているのか。(中津川委員)

タブレットの中に学習ソフトは入っていない。学習ツールはクラウドにあるので、Wi-Fiにつながっていないと学習できない。今回家庭に持ち帰り、Wi-Fiにつなげるかどうかの確認を行っている。不都合が起こった場合、学校にお知らせくださいと伝えている。(土屋教頭)

子どもがタブレットを使って楽しく学習できていた。(中津川委員)

タブレットを使った効果的な家庭学習を教員が現在模索している。(土屋教頭)

意図は理解できるが、Wi-Fi環境が整っていない場合はどのように対応するのか、家庭のWi-Fi環境の有無によって格差が生まれえないかということの中津川委員が聞いたかったのではないか。(鈴木厚会長)

始まったばかりですが、格差が生じないか心配。(中津川委員)

これから学校評価アンケートは行うのか。別紙資料は学力調査のアンケート結果から曳馬小学校の子どもは思考する力が不足している項目についてのまとめということなのか。不足している力を着けるようにしていく必要がある。(池村委員)

先進的に改革を行い、時代の要請に応えられるように体制を変えていく。(竹内校長)

今年は学校評価が低くても、来年度以降結果にあらわれると考え、2学期から改革していくということですね。(池村委員)

2 学期から授業や宿題を変えていくので、今年は学校評価の結果には表れないかもしれないが、来年度以降の学校評価と比較するためアンケートを行う。(竹内校長)

アンケートは 3 年生から 6 年生を対象としているのに、言葉使いや質問形式が同じだと理解力に不都合がではないか。(池村委員)

アンケートの質問表現を対象学年によって補足して変える予定。子どもと保護者のアンケートも同様に表現方法を変えて行う。(竹内校長)

わかりました。(池村委員)

「協働」「プロセス」など一般的に子どもに理解しにくい表現ではないか。時間をかけて理解を促せば定着し子供のステップアップにつながるかもしれないが、子どもへのアンケートの表現としては難解に感じる。(飯尾忠弘副会長)

㊦㊧㊨に該当する重点目標は何か。重点目標が急激に変わることは、大人なら理解できるが、子どもは理解できるのか。重点目標などは急激に変えるのではなく、ステップアップしていくような変化の仕方が良いのではないか。(川井委員)

学校コーディネーターの活動状況を教えてください。(鈴木厚会長)

加藤委員が習字のボランティアに参加。気楽にボランティアに参加して欲しい。

7 月 26 日教育センターで曳馬小学校運営委員会の活動のパネルディスカッションを行った。運営委員会発足年数が同じ学校の中では、曳馬・上島小学校の活動内容は充実し進んでいる。CS 協力依頼書の活動協力が増えてきている。

現在、社会に出ている曳馬小中学校卒業生の話を知りたいと 6 年生総合学習の依頼があった。4 クラスあるので 4 人をさがした。20 代の富士市在住の会社員(男性)曳馬小学校卒業生、山内整形外科のドクター(男性)曳馬中学校卒業生、20 代の福島から浜松に転勤してきた保険会社営業員(女性)神奈川県出身、池村委員(男性)曳馬小学校卒業生の 4 人が話す予定。9 月 13 日 3 年生総合学習で昔の曳馬の話をしてもらう予定。鈴木厚会長や飯尾忠弘副会長に協力の下行う予定。

協働センターとコーディネーターで地域の協力してもらえ人を探していく予定。(池村委員)

家庭科ボランティアは飯尾智弘委員を含め常時4人がボランティアとして協力している。家庭科室はこの時期とても暑い中協力してもらっている。(飯尾智弘委員)

今後も地域の力として協力していきたい。(鈴木厚会長)

学校評価アンケートの中に曳馬小学校の子どもたちは曳馬小学校が好きかという趣旨の質問がなかった。

挨拶運動等日々の活動を頑張っていることへの評価項目がないように感じた。

普段子どもの様子を参観することがない。保護者と一緒の参観会では普段の様子が見ることがわからないと以前伝えたが、その参観会もなく、日常の参観もないと子どものことを考えるときに具体的に考えにくい。現在の学校の様子をもう少しわかるようにしてほしい。(小楠委員)

インフルエンザやコロナの影響があったので今回は参観を見合わせたが、状況が落ち着き次第情報発信をしていく。(竹内校長)

先日2年生の校外学習があった。昨年は1クラスの見学だったが、今年は3クラス約100人の見学があった。

曳馬公民館は築64年という歴史のある建物の見学。積志小学校の建て替え時の木材を活用し建築されたもの。公民館の見学を行った後1クラスの子ども全員で紙飛行機を作り、一斉に飛ばした。

凧揚げ会に提灯や幕張り等の協力してもらい本格的な雰囲気ですてい見学してもらった。

児童遊園では水消火器を使った消火活動とリアカーに水を乗せ一周公園を回る活動。

数回の打ち合わせを重ねて充実した活動にしたいと自治会やたこ揚げ会に協力をしてもらった。後日子どもたちから絵日記のようなお礼の手紙ももらって自治会一同喜んだ。

(飯尾忠弘副会長)

45分と限られた時間の中で、100人の子どもの見学が実行できたのか。(飯尾智弘委員)

若干時間がオーバーしたが、自治会やたこ揚げ会の協力を得て充実した活動ができた。活動中先生の誘導が見事だった。(飯尾忠弘副会長)

その他報告事項等

司会から、次回会議は、令和6年2月1日(金)午前10時20分から多目的ホールで開催する旨の報告あった。

12月上旬に運営委員へ運営協議会についてアンケートのお送り致しますので、12月15日までに返送をお願い致します。

運営協議会委員は1期3年最長2期までの任期ですが、いろいろな方に携わってほしいので、推薦したい方がありましたら校長または教頭へ連絡をお願いします。

浜松市教育委員会から浜松市教育総合計画の後期評価について地域住民代表として運営委員にアンケートをご協力お願いしたい。さくら連絡網にてアンケートを送りますので QR コードを読み込んで回答をお願いします。